

令和2年度事業報告書

自 令和 2年4月 1日

至 令和 3年3月31日

公益財団法人 海原会

令和2年度事業報告書

自 令和 2年4月 1日
至 令和 3年3月31日

海原会は、その前身である「予科練の碑保存顕彰会」が昭和42年5月に発足して以来約半世紀にわたり予科練戦没者の慰霊と顕彰の為の事業を継続して参りました。この間、昭和53年にはその活動をより組織的に行うために、高松宮殿下を名誉顧問にお迎えして財団法人海原会を設立し現在に至っております。

しかしながら、会員数も500名を割り込み、会の運営が徐々に難しくなっているは遺憾ながら否めない現実であります。令和2年度はこのような現状に鑑み、会の目的であります予科練戦没者の慰霊顕彰活動に従事するかたわら、昨年度に引き続き会員の募集にも力を入れて参りましたが、退会者数を補うまでにはその成果が得られておりません。次年度以降、会勢の増大が喫緊の課題となっております。

また、本年度は中国本土に発生源をもつ新型コロナウイルスの感染拡大のために、参加予定の多くの行事が中止となり、慰霊顕彰事業のうち自衛隊を始めとする友誼団体等との人的交流促進と連携をはかることができませんでした。

若くして自らの命を投げ打って国難に殉じた予科練同窓英霊の思いを継承するという当会の目的を達成するために、前述のように厳しい環境下ではありますが、令和2年度の事業も全員が一丸となって精進してまいりました。

以下その概要を御報告いたします。

I 慰霊顕彰事業

慰霊顕彰事業の最も重視しているものは、陸上自衛隊武器学校の敷地内に造営されている「雄翔園」における「予科練戦没者慰霊祭」であります。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために出された非常事態宣言に対応するために、規模を大幅に縮小して開催しました。

また、「予科練戦没者慰霊祭」以外に全国各地で行われる予定であった慰霊祭も、殆んど中止もしくは規模縮小となり本会の目的である予科練出身戦没者の慰霊・顕彰の成果を十分に果たすことはできませんでした。その状況は以下に記述するとおりであります。

1 慰霊事業

(1) 第53回予科練戦没者慰霊祭（献花式）

コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言下での慰霊祭であったために、慰霊祭の規模を縮小し出席者を海原会役員の代表者に限定する形で開催しました。

初夏の陽気を思わせる五月晴のもと、参加者の心のこもった慰霊祭を挙げることができました。

ア 日 時 : 令和2年5月29(金) 午後1時から1時30分

イ 場 所 : 陸上自衛隊武器学校内「雄翔園」

ウ 内 容

(a) 式典参加者

海原会会長	小林 和夫 氏	(乙飛19期生)
理事長	菅野 寛也 氏	
副理事長	酒井 省三 氏	
副理事長	安井 剛 氏	
霞ヶ浦支部長	徳永 三好 氏	(甲飛13期生)
事務局長	平野 陽一郎氏	

(b) 式典の概要

式典では、小林会長が参加者を代表して祭文を奉読した後参加者全員が二人像に献花を行いました。

その後「國ノ鎮メ」が流れる中、全員で黙祷を行い閉式しました。

エ 協力団体等

陸上自衛隊武器学校 : 式典会場及び机・椅子等備品の貸し出し

オ 慰霊祭動画のユーチューブへの投稿

慰霊祭の様子を撮影した動画を編集して、ユーチューブの海原会チャンネルに投稿(アップ)しました。

また、海原会の公式 Facebook にも投稿致しました。

(2) 全国各地で挙行された慰霊祭等への参加

本年度予定されていたほとんどの慰霊行事等が、中止もしくは規模を縮小しての開催を余儀なくされました。

令和2年 4月 26日 国分基地特攻隊員戦没者慰霊祭
中止された。

5月 10日 特攻殉国の碑慰霊祭
規模を縮小して実施された。

5月 26日 つくば海軍航空隊慰霊祭
延期された。

- 6月 21日 第47回静岡空襲日米合同慰霊祭
中止された。
- 7月 4日 大東亜戦争全戦没者慰霊祭 於：靖国神社
コロナ禍のため規模を縮小し開催された。
- 9月22日 第69回特攻平和観音年次法要
於：世田谷観音寺内特攻観音堂
コロナウイルス感染拡大防止のために規模を縮小して開催したため、海原会からは参加なし。
- 9月23日 東郷神社「海の宮」秋祭
於：東郷神社
コロナウイルス感染拡大防止のために規模を縮小して開催したため、海原会からは参加なし。
- 10月17日 串良航空基地慰霊祭
コロナウイルス感染拡大防止のために規模を縮小して開催したため、海原会からは参加なし。
- 10月23日 東郷神社 新嘗祭
於：東郷神社
コロナウイルス感染拡大防止のために規模を縮小して開催したため、海原会からは参加なし。
- 10月25日 陸上自衛隊施設学校開設69周年記念行事
於：陸上自衛隊勝田駐屯地
コロナウイルスの感染拡大のために中止になりました。
- 10月 陸上自衛隊武器学校開設記念行事
於：陸上自衛隊土浦駐屯地
コロナウイルスの感染拡大のために中止になりました。
- 10月 海上自衛隊下総航空基地開設61周年記念行事
於：海上自衛隊下総航空基地
コロナウイルスの感染拡大のために中止になりました。
- 令和3年3月22日 東郷神社海の宮春祭
於：東郷神社
コロナウイルス感染防止のために、責任役員及び総代のみで実施

3月28日 陸上自衛隊土浦駐屯地観桜会
於：陸上自衛隊土浦駐屯地
コロナウイルスの感染拡大のために中止になりました。

3月27日 特攻隊全戦没者慰霊祭
於：靖国神社
コロナウイルスの感染拡大のため規模縮小になりました。

(3) 慰霊環境の整備

ア 雄翔園整備作業隊の編成

霞ヶ浦支部を母体とし、趣旨に賛同する会員及び武器学校 OB 会員で雄翔園整備作業隊を編成しました。(10月に編成)

イ 雄翔園整備作業計画の策定

雄翔園整備作業計画(月間整備計画)を作成して、整備実施の根拠としました。

ウ 雄翔園整備作業の実施

雄翔園整備作業隊を組織した10月以降、計41回(延べ時間82時間)の整備を実施しました。参加した作業人員は延べ73人で、そのうち延べ17名はボランティアでの参加者でした。

(4) 雄翔園及び雄翔館見学者実績

令和2年度は、11,435の方が雄翔園及び雄翔館を見学しました。多くの見学者に、見学所見を記入していただきましたので、機関誌「豫科練」に掲載しました。掲載させていただいた見学者には当該機関誌を贈呈させていただきました。

2 顕彰事業

(1) 遺書・遺品・実戦記録等の整備事業

ア 海原会ではご遺族に残された遺書・遺品・実戦記録などを収集して、後世に伝えるための事業を着実に推進しています。令和2年度は、ご遺族等から提供いただいた15点の遺品等を整理保管いたしました。

イ ご遺族から新たな遺影2点及び守り刀(脇差)が小林和夫海原会会長(乙飛19期生)から寄贈され、寄付受けの処置を実施するとともに脇差については雄翔館に展示しました。

ウ 海原会所蔵品等の整備

(ア) 保管庫の間仕切り作業の実施

8月28日に陸上自衛隊武器学校の協力を得て、海原会の保管庫の間仕切

り作業を行うとともに、霞ヶ浦支部が同月31日に保管庫内の備品類の再配置作業を実施しました。

これまで慰霊祭関連の備品と、遺品や遺影等の保管スペースに間仕切りがなく、慰霊祭備品の出し入れの都度埃が舞う等の不都合がありましたが、間仕切りを作ることにより両者を区分して保管ができるようになりました。また、作業台を設置することにより遺品等整備のための作業環境が大幅に改善されました。

(イ) 海原会所蔵品の整備作業の実施

a 所蔵庫に保管している遺品等の整備

本年度は、11回の整備作業を実施しました。この間延べで22名の方が整備に協力をしていただきました。

実施した作業の内容は以下の通りです。

- (a) 遺書・遺品等の現況確認
- (b) アルバムの修正、差し替え修理
- (c) 飛行機模型（プラモデル）の修理

b 大森事務局に保管している資料等の整備

(a) 記録媒体の経年劣化やハード機器の廃止により、視聴が困難となったビデオ・カセット・8mm記録を、データ変換しDVDにダウンロードした。令和2年度末、海原会で保有するDVDは137本です。

(b) 写真や各種資料をスキャンしてPDFデータとして保存する事業を継続中です。

(c) 蔵書等はリストを作成するとともに、今後海原会所蔵庫に移送する予定です。

(2) 遺族支援調査

ア ご遺族も年々亡くなられて、親の代から兄弟・姉妹へと移り、中には孫の代になり、世情も戦争犠牲者への関心が薄れだんだん風化されつつある現状に鑑み、音信不通のご遺族の所在を調査して会報を送付し、また本会主催の慰霊祭は勿論のこと、各地各期が催す慰霊祭に積極的に参加し、ご遺族の啓蒙と当会への入会の促進を図ってきました。本年度は新たに4名の御遺族を特定することができ3名の方が入会していただきました。

イ 本年度は特に、祖父や父親が元生存予科練であったという方からの連絡や入会の問い合わせが増加しました。会で現在の会員の状況を確認したところ同じ環境の会員約30名が所属しており、今後会として連携を強化していく

必要性を強く感じています。

(3) 海原会会員の入退会状況

本年度は、50名の方が退会され新たに18名の方が入会されました。年度末現在における会員数は、450名です。

(4) 陸上自衛隊との連携

本年度はコロナウイルスの影響で予科練戦没者慰霊祭が規模を縮小して開催されました。あるいは駐屯地の観桜会や開設記念行事が軒並み中止となったために、例年の様な連携の維持ができませんでした。そこで、本年度は慰霊顕彰環境整備に重点を置いた連携の強化を図りました。

ア 雄翔園整備に伴う資器材の提供

陸上自衛隊武器学校（広報援護班）が実施した雄翔園の整備にあたって、エンジン付き芝刈り機1機を導入し支援を実施しました。また、園内の芝生の根止め作業のための資材を提供しました。

イ 武器学校開設記念行事

令和2年10月に予定されていた陸上自衛隊土浦駐屯地開設68周年記念行事はコロナウイルス感染防止の為に中止となりました。

ウ 土浦駐屯地観桜会

令和3年3月28日に予定していました土浦駐屯地観桜会は、コロナウイルスの感染拡大のために中止になりました。

オ 施設学校音楽隊定期演奏会

令和3年1月16日に予定していました、施設学校音楽隊定期演奏会はコロナウイルスの感染拡大のために中止になりました。

(5) 海上自衛隊との連携

予科練教育制度を継承している海上自衛隊航空学生の皆さんに、戦没予科練生の遺訓を伝承するために以下のような活動を行いました。

ア 航空学生の入隊式

4月5日に菅野理事長が出席を予定していました、第72期航空学生の入隊式は、コロナウイルス感染拡大防止のために中止となりました。

イ 海上自衛隊航空学生の雄翔館研修支援

コロナウイルス感染拡大防止のために中止となりました。

ウ 下総航空基地開設記念行事

10月25日に開催予定の下総基地開設61周年記念行事は、コロナウイルス感染拡大防止のために中止になりました。

エ 下総航空基地観桜会

予定していました下総航空基地観桜会は新型コロナウイルスの感染拡大のために中止になりました。

(6) 行政及び他団体等との連携

ア 予科練平和記念館運営協議会

7月20日(月)・3月22日(月)に開催され、委員として平野専務理事が出席しました。

イ ご遺族調査協力

予科練平和記念館からの要請により、ご遺族など4名の方の戦没予科練生に関する調査に協力しました。

ウ 千葉県警勝浦警察署への協力

勝浦警察署管内で、昭和20年8月15日に撃墜された零戦の残骸とともに発見された人骨のDNA鑑定のために必要なご遺族を捜索するために、海原会豊岡昭監事(甲飛16期生)が、現地連絡に赴く等の協力を行った。

エ 甲飛喇叭隊との意見交換会の開催

(ア) 日時 令和2年11月14日(土)

(イ) 場所 阿見町本郷ふれあいセンター 会議室

(ウ) 参加者

a 海原会 豊岡監事、塩澤準評議員、行方参与、平野理事

b 甲飛喇叭隊 原 知崇代表 他隊員2名

(エ) 内容

海原会の現状及び活動方針を説明し、今後海原会と甲飛喇叭隊の連携策についての意見交換を行った。

II 定期刊行物発行业

機関誌月刊「予科練」は、発刊以来463号を数えております。

その編集にあたっては、全国各会の活動状況の紹介や、予科練同窓の戦争体験談等ご遺族の皆様にご喜ばれるような内容の充実を力を入れてきました。

引き続き投稿を依頼するなど内容の充実を図るとともに、ご投稿をいただいた方に記事が掲載された機関誌を贈呈することにより会員以外の購読者の発掘につなげる施策を継続したいと思います。

また、本年度は事務所の移転に関連して機関誌編集の今後の在り方について、

関連企業等の意見を聴取する等の対応を行いました。

1 編集会議

新型コロナウイルス感染拡大防止のための非常事態宣言の発令により、編集会議の開催は中止としました。編集作業は編集委員相互に編集資料を郵送により実施しました。また最終的な原稿の校正作業は保坂及び津島編集委員が実施いたしました。

2 機関誌の発行

計画どおり、第458号から第463号まで6回の機関紙の発行を行いました。

3 機関誌編集の在り方検討

第1印刷の営業担当者を海原会事務局に招致し、機関誌の編集及び印刷並びに配送等、機関誌発行に関連する一連の業務について、聞き取り調査を実施しました。

(1) 時期 3月29日

(2) 場所 海原会事務局

(3) 参加者 事務局長、安井副理事長

(4) 聞き取り調査内容の概要

ア 機関誌を発行するにあたっての経費削減のための施策について

イ 機関誌をA4化、カラー化する場合の経費について

III 青少年育成支援事業

(1) 今年度は、新型肺炎ウイルスの感染により阿見町子ども会育成連合会主催の球技大会が中止となり、助成の遠慮の申し出があったので助成は行いませんでした。

(2) ネットワーク海原会の構築

20～30代の会員を中心に、令和3年3月15日にネットワーク海原会を立ち上げました。当初の会員数は10名、南は熊本・鹿児島～北は埼玉・茨城在住の会員がZoomやSkypeを活用して連携し、今後どのような活動ができるのかを話し合える環境が整備されました。

今後このネットワークを活用した様々な活動を通じて、若者の健全な育成を促進したいと思えます。

ア 第1回ネットワーク海原会会議

3月15日(月)に第1回のネットワーク会議を、Zoomを利用して6名で開催しました。今後の活動の進め方等について意見交換を行いました。

イ 第2回ネットワーク海原会会議

3月26日（金）に第2回目のネットワーク会議を、Skyp を活用して10名で開催しました。具体的な施策について話し合いを実施しました。

IV 庶務事項

(1) 理事会開催

隔月1回の定例理事会を計画しましたが、非常事態宣言の発令にともない、役員の安全を確保するために年度内総ての理事会の開催を見送りといたしました。議事につきましては4月定例理事会を除き総て、みなし決議により審議を実施しました。

みなし決議をおこなった日付は以下のとおりです。

令和2年4月16日（通常開催）、5月15日、8月28日、10月26日、12月17日、令和3年2月18日

(2) 評議員選定委員会

5月14日（木）に評議員選定委員会を開催して、評議員2名の選任を行いました。

ア 開催日時 令和2年5月14日（木）
午前11時開会 午前11時30分閉会

イ 場所 公益財団法人海原会事務局 会議室

ウ 出席者

(ア) 評議員選定委員

外部委員 原 雅英

外部委員 中野渡祐一

評議員委員 津島 裕

監事委員 豊岡 昭

事務局委員 平野陽一郎

(イ) 役員

副理事長 酒井 省三

エ 以下2名の方が評議員に選任された。

石引 大介 氏（一般会員）

湯原 弘 氏（一般会員）

(3) 令和2年度評議員会

新型コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言の発令に伴い、評議員会開催を中止し、海原会定款第19条（決議の省略）に基づきみなし決議により、菅野寛也代表理事が提案した以下の議題について審議を行いました。提案のとおり全評議員の賛成を得て承認されました。

ア 審議実施時期

令和2年6月15日

イ 審議事項

- (ア) 令和元年度事業報告（令和元年度収支決算）
- (イ) 監査結果報告
- (ウ) 令和2年度事業計画（令和2年度収支予算）
- (エ) 海原会定款の一部改正
- (オ) 令和2年度人事について
- (カ) 大森事務所の移転について

(4) 大森事務所の移転について

大森事務所を茨城県阿見地区に移転する事に関して、今後理事会において検討を開始することの是非について評議委員会において審議（みなし決議）した結果、全会一致で承認されたために、正式に検討を開始しました。

ア 検討プロジェクトチームの立ち上げ

イ 検討要領等の協議

令和2年7月17日、事務局において主務者である安井副理事長と平野事務局長が①移転のスケジュール②細部検討担当者③移動関連経費計画について協議しました。

イ 公益法人協会が主催する「公益法人相談会（東京大会）」に参加

下記要領で公益法人協会が実施した相談会に参加して事務所移転に関連する手続き事項及び懸案となるような事項について質問を行ったが、特に阻害要因はなく今後事務所の移転の円滑な推進に目途が着きました。

- (ア) 日時 令和2年12月3日（木）
- (イ) 場所 エッサム神田ホール1号館
- (ウ) 参加者 安井副理事長 平野事務局長
- (エ) 相談内容
 - a 事務所の移転に関する手続き事項と懸案事項について
 - b 職員を兼務する理事に対する報酬の支払いについて

(4) 会計監査

令和3年4月22日（木）海原会会議室において、令和3年度の評議員会の開催に先立ち、令和2年度の経費執行状況について監事1名による監査を実施し、令和2年度海原会の事業運営及び経費執行に関して問題のないことを確認しました。

参加者

経費執行理事（副理事長） 酒井省三 氏
（副理事長） 安井 剛 氏
事務局長（専務理事） 平野陽一郎氏
監査（監事） 豊岡 昭 氏
顧問会計士（公認会計士） 加藤久幸氏

(5) 非常事態宣言発令に伴う対応

政府の非常事態宣言に対応するために、令和2年3月30日（月）から5月25日（月）の間事務局を閉鎖しました。

令和2年度に公益財団法人海原会が実施した事業を以上のとおり報告する。

公益財団法人 海原会

理事長 菅野 寛也